

令和6年度第2回多摩市在宅医療・介護連携推進協議会

要点録

○協議会概要

開催日時	令和7年2月17日（月）19時00分～20時10分
出席委員	新垣 美郁代 会長 齋藤 伸介 委員 後藤 靖治 委員 岡田 美保 委員 三浦 未来 委員 吉澤 恭代 委員 渡邊 郁子 副会長 浅井 英夫 委員 金沢 久実 委員 小泉 勝長 委員 瀧 真木子 委員 (計11名)
欠席委員	明石 のぞみ 委員 前山 英之 委員 (計2名)
事務局	健康福祉部長 伊藤 介護保険課長 原島 地域ケア推進係 萩原 小林 高齡支援課長 五味田 地域ケア推進係長 曾山 多摩市高齡者在宅療養支援窓口 相談員 淵野 石岡 (計8名)
公開区分	公開
傍聴者	1名

○議事内容

< はじめに >

あいさつ

【会長】協議会のメンバーとは関係が深まっているが、市民の方に幅広く在宅医療を知ってもらうことが重要

【高齡支援課長】高齡化の高さに対応していきたい。

< 報告事項 >

(1) 令和6年度医療・介護関係者の研修実施報告

【事務局】

資料2を用い要点を説明。

10月25日1回目 13職種参加

1月29日2回目 15職種参加

アンケートの説明 講師は消防隊の方の質問形式で具体的な内容だった。

今後の研修の希望 多世代家族の課題が多かった

研修回数については2回でよい。

◎研修や現場から今後取り組むべきこと。

救急キットの活用（窓口配布のみ）おくすり手帳の活用

ACPの作成と第三者との共有が大事

在宅療養のPRを高年齢支援課でおこなう。等がでた。

研修についての意見

【委員（介護事業所）】

事例を用いた研修は具体的で分かりやすい

【委員（歯科医師）】

いろいろなことを教わった。グループワークはみな意見が出て良い。

特に1月の事例は現状にちかい。

会長：おくすり手帳のアプリの手帳についてどうなる見込みなのか

【委員（薬剤師会）】

高齢者は紙のベースでいいが、これからはアプリになると個人情報は見れない。救急時に使う設定では考えられていない。マイナンバーからどこかで情報が見れるような仕組みがこれからできるといいが今は紙が中心。

【会長】マイナンバーは使わない人もいる。病院では見れるが救急現場ではスピードが重要。

（2）多摩市高齢者在宅療養支援窓口（中間報告）について

【事務局】

多摩市高齢者在宅療養支援窓口淵野氏から資料3を用いて要点を説明。

（傾向）

- ・昨年より市民の方が多くなっている。
- ・医療機関の相談が多い56%
- ・医療そのものの相談も増えている、病気や受診先。胃ろうなど意思決定支援の相談もある。

（活動）

- ・医療機関の情報作成し医師会のHPで公開
- ・医師会と訪問看護ステーション連絡会 MCSの普及・災害の勉強会 参考になったが100%
- ・5市の窓口連絡会
- ・認知症カフェでの講話 等

市民の相談増加の理由 たま広報と医師会のHPのリニューアル

在宅医療の希望あり相談が多い。市民に分かりやすいQAなども検討している。

【委員（小規模多機能施設）】

在宅を選ぶ方が増えている、窓口や包括からの相談が増えている。医療があっても在宅を希望する。

【委員（包括支援センター）】

看護小規模多機能施設はまだ数が少ない。医療依存度が高いとますますニーズが増えると思われる。

【委員（保健所）】

相談件数の経年変化はどうか？

【事務局】 年々増加傾向している。

（3） 「在宅療養に必要な連携を担う拠点」について（R6年11月19日～指定）

【事務局】

資料4を用いて要点を説明。

◎5つの実施すべきこと

- ・協議会を開くこと。
- ・災害時への対策
- ・24時間体制の医療の確保
- ・専門職への研修人材育成
- ・住民へのPR

【会長】 拠点はどこになるのか？

【事務局】 在宅医療介護連携推進事業を活用することとなっているため、高齢支援課を中心に健康推進課と取り組む。積極的役割を担う医療機関の推薦は医師会で調整中。

【委員（歯科医師）】 認定を受けるとメリットはあるのか。

【事務局】 報酬はない。東京都HPに掲載される。

【会長】 福祉の方とも共同していく。障害も含めていく方向性でよろしいでしょうか。

【事務局】 令和7年度より本協議会の事務局に障害福祉課と健康推進課が入る予定。

<協議事項>

（1） 令和7年度多摩市在宅医療介護連携推進協議会のテーマ（案）について

【事務局】

資料5を用いて要点を説明。

【会長】 こういうことが知りたいというものはあるか

【副会長】 4つの場面の残りの3つはつながっている。

できれば2つをつなぐようにすれば、入退院支援から日常の療養支援、日常の療養支援から看取りへなどがいいのではないか。

【委員（包括支援センター）】

区切るよりつながっている。がん末で治療終了している方の在宅で比較的元気だったので訪問診療を探してくださいねと言われ退院したが、状態が急激に低下し高齢者二人でどうしていいかわからず、結局救急搬送で元の病院へ入院したケースがいた。入退院支援から療養支援の内容で取り組めるとよい。

【会長】 退院時の支援がある人となない人がいる。

大きい病院で3か月に1回の外来受診はかかりつけ医や看取りをしてくれる在宅医ではない。在宅で亡くなっている人はそんな人も多い。相談をすればいいが、知らない人もいる。

【委員(リハビリ三職種)】

急性期が中心で在宅のイメージはない。

本人は帰りたくても家族が許さないのは特に看取りのイメージがないからとも考えられる。

【委員(薬剤師会)】

薬剤師の機能が知られていないとはどういうことか？

【事務局】薬の在宅サービスを知らない人が多いということ。在宅で服薬管理もできることを知らない。

【委員(歯科医師)】最期までおいしく食べる。入れ歯だけでなく嚥下の相談を受けている医師も多い。訪問で施設には行っている。

【委員(薬剤師会)】

各職種の算定基準が分からないので知りたい。薬剤師の訪問でもできることもできないところもある。

【会長】

入退院支援から日常の療養支援の方向で意見が出たように思う。

薬剤師や訪問歯科の支援もあることを周知してはどうか。

【事務局】

入退院支援から日常の療の支援の方向で決めたい。

【会長】目標に対する取り組みは具体的にどうするか

【委員(訪問看護)】研修部会では入院していた方は情報があるが外来の方は情報がすくない。自分たちで探すことは難しい。訪問看護が入っても一から情報収集するのは難しいなどの意見があった。

【会長】外来からの入退院支援は難しいので、連携について何ができるか。

多摩南部地域病院か日医大多摩永山病院のMSWやNsの話聞くのはいいのではないかな。

お互いの事情を知るのいいのでは、外来と入院の比較をしてもいい。

今どういうことができるのか 知りたい。

【委員(柔道整復師)】

柔道整復は介護保険サービスには入っていない。自費なら対応できる。リハビリ職として何かしたいと考えている。ファシリテーターを決めグループワークで話すのは緊張があるが、顔が見える時間があるのいいかなと思う。

【会長】多くの職種に参加していただくには、面白そうと思っただけのものが大切。

前回の消防隊の話は興味深かった。別の立場の方から話を聞くのはよいと思う。

(2) 令和7年度年間スケジュール案について

【事務局】資料7について説明

・日程を固定することについて

拠点になることで参加者が(障害福祉課 健康推進課)が増えることもあり固定したい。

5月の第3金曜日などはいかがでしょうか。

協議会 5月(5/16)・2月(2/10)と研修部会(7月・11月・3月)の予定です。

※研修部会は後日相談予定

・任期の変更について

委員改選について今年の7月で変更しますが、任期を令和7年7月1日～令和9年3月31日まで(R8年度末)任期の変更させていただきます。年度末にあわせていきたい。

・多職種研修の回数について

高齢者在宅療養支援窓口で令和5年度から医師会と訪問看護ステーション連絡会を年2回開催し、都の研修も再開し、専門職向けの研修の機会がある。研修部会はワーキングチームの役割もありますので今後は研修を1～2回と幅を持たせていただきたい。

【会長】何か質問ご意見はありますか。

なし

【会長】 次回の開催日は令和7年5月16日(金曜日)19:00からの開催とさせていただきます。

会場についてはまた連絡します。

協議会の円滑な開催にご協力ありがとうございました。

以上